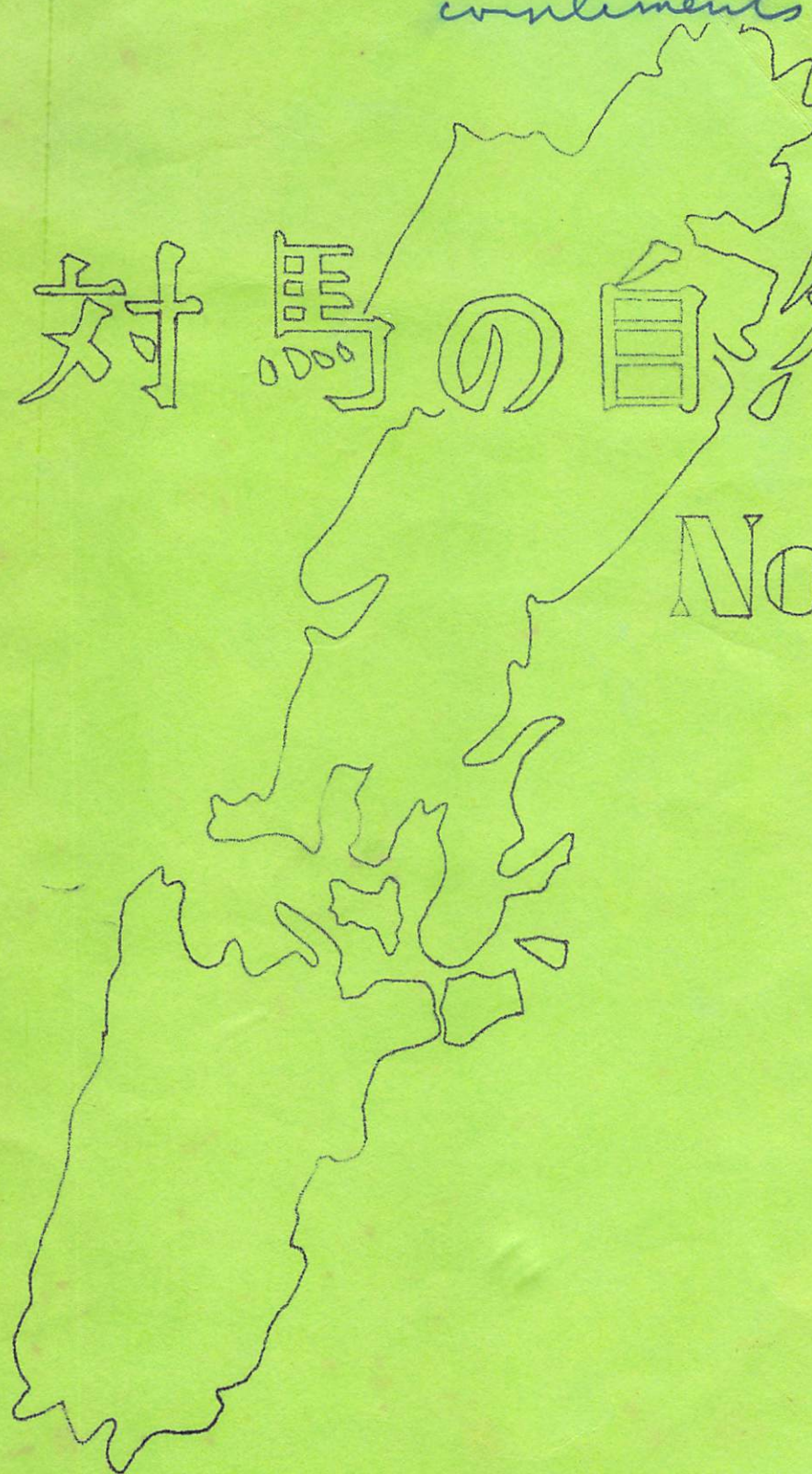


to Mr Sakai
with the author's
compliments

M.
Egusa

対馬の自然

No 12



巻刊にあたって

早田 謙二

対馬の自然 No. 12 は今年度の都活動の締め括りとして、蝶の採集記録を中心に編纂しました。

今年度蝶の班はタイワンモンシロチョウの種間関係を調査し、植物の班では対馬のランについて調べるなど、積極的によく活動することができました。その結果、日本学芸コンクールを始め多くの賞を受賞することができ、そのうえ文化祭も大成功のうちに終え、秋が生物班にとって最高の年になったようです。

対馬は他地と異なった独特の自然環境を持った島です。この条件を生かし、蝶やランだけでなく、今後とも多くの生物について調査していきたいと思っています。

最後に頭書にあたり毎日の都活動で御指導・御協力してくださっている諸先生方に厚く御礼申し上げます。

目次

巻刊にあたって	早田謙二	1
対馬産蝶類採集記録	全員(扇徹)	2
対馬産ラン科植物の採集記録	国分 清	6
韓国地学研修旅行をかえりみて	小柳孝夫	8
長崎県産アゲハチョウ科の食草の知見	江島正郎	10
文化祭報告	早田謙二	30
2年間をかえりみて	赤間福二・扇徹・早田謙二	31
来年度の抱負	歌野啓一・国分清・杉原孝太郎	32
編集後記	早田謙二	32

対馬産蝶類採集記録 — 1979 —

対馬高等学校生物部

イニシャル使用者

江島正郎 → M.E

下田 彰 → A.S

平間一幸 → K.H

糸瀬政義 → M.I

早田謙二 → K.S

赤間稔二 → T.A

北山陽正 → H.K

豊田泰司 → T.T

大東幸子 → S.IN

伊原小百合 → S.IH

中庭順子 → J.N

川上由香台 → Y.K

歌野啓一 → K.U

杉原孝太郎 → K.S'

園分 清 → K.K

採集地

原野 (旧町内)
 原野
 美津
 豊玉
 上野
 上野
 上野
 上野

磯石・日吉・東里・阿須
 山・後山・一の丸・三の丸・豆畝・上見坂
 今里・久須保・洲藤・焼松
 和板・仁位
 三枝・木坂神社
 佐須奈・佐護・千俵崎山
 河内

アゲハ	後山	79, 9, 7	2♂	S.IH
クロアゲハ	一の丸	79, 5, 6	2♂	K.U
	ミ	79, 6, 3	1♂	K.S
	ミ	79, 6, 9	2♂	K.S
	上見坂	79, 6, 10	1♂	K.S
モンキアゲハ	一の丸	79, 5, 6	2♀	K.U
	ミ	79, 5, 27	1♂	J.N
	ミ			T.田
	ミ			K.U
	後山	79, 6, 9	1♀	K.S
	上見坂	79, 5, 5	1♂	H.K
カラスアゲハ	一の丸	79, 5, 6	3♂	K.U
	ミ	79, 6, 9	1♂	K.S
	後山	79, 5, 3	1♂	
	上見坂	79, 6, 10	1♂	
	河内	79, 5, 5	2♂	M.E
	三豆	79, 5, 20	2♂	K.H
	三豆	79, 9, 8	1♂	M.E
	三豆	79, 5, 6	1♂	K.U
ミヤマカラスアゲハ	一の丸	79, 5, 6	2♂	K.U
	ミ	79, 5, 27	2♂	M.E
	ミ	79, 6, 10	1♂	K.H
	三豆	79, 5, 20	1♂	M.E
	三豆	79, 9, 8	2♀	M.E
	三豆	79, 5, 6	1♂	
	三豆	79, 9, 10	1♂	
モンシロチョウ	久須保	79, 4, 22	3♂	K.S
	阿徳	79, 3, 23	4♂	S.IH
	洲	79, 4, 30	1♂	K.S
	日	79, 4, 20	2♂	S.IH
	今里	79, 6, 13	1♀	K.K
タイワン モンシロチョウ	佐須奈	79, 7, 30	1♀	佐伯吉隆
ツマキチョウ	洲	79, 4, 30	3♂	K.U
	昼板	79, 4, 21	1♂	M.E
	和板	79, 4, 22	1♂	
キチョウ	後山	79, 4, 11	1♀	K.U
	ミ	79, 4, 12	2♂	J.N, S.IH
	ミ		4♂	K.U, K.S
	佐須奈	79, 7, 29	1♂	J.N
	洲	79, 4, 30	1♂	K.U

モンキチヨウ	須保 石刺	79, 4, 22	1♂	K.S
		79, 3, 23	1♂	J.N
	洲藻	79, 4, 21	1♂	K.U
		79, 4, 30	2♂	K.S
(白化型)	吉藻	79, 4, 20	1♀	J.N
	洲藻	79, 4, 30	1♀	K.H
	焼松	79, 5, 6	1♀	K.S
キリシマ	有明山	79, 8, 3	4♂	K.H
ミドリシジミ	今里 洲藻	79, 4, 6	4♂	T.A
		79, 4, 30	3♀	K.H.K.S
	豆	79, 4, 15	5♂	M.E
(ノキ果常型)	焼松	79, 5, 6	2♀	K.H
ベニシジミ	後山 洲藻	79, 4, 22	1♂	K.U
		79, 4, 21	1♂	K.S
	日吉	79, 4, 30	3♂	K.U.K.S
		79, 4, 20	4♀	J.N
			1♀	S.H
ツバメシジミ	後山 洲藻	79, 4, 11	2♂	K.U.K.S
		79, 7, 30	1♂	J.U
	奈刺	79, 4, 21	1♂	K.U
		79, 4, 30	1♀	J.U
ツシマ	味坂神社	79, 9, 10	1♂	M.E
ウラボシシジミ	佐護奈	79, 7, 29	2♂	S.H.Y.K
		79, 7, 30	1♀	J.N
ゴイシシジミ	佐護	79, 7, 28		2♀ J.N
ヤマトシジミ	豆	79, 4, 15	1♂	M.E
	豊	79, 5, 6	1♂	M.E
シルビアシジミ	豆	79, 4, 5	1♂	K.H
ルリシジミ	後山 洲藻	79, 4, 12	3♂	S.H.J.N
		79, 4, 21	1♂	K.S
		79, 5, 6	1♂	S.I.N
	豆	79, 4, 30	5♂	K.U.K.H
	豊	79, 4, 15	1♂	M.E
		79, 3, 23	1♂	
テングチヨウ	有明山	79, 8, 3		1♀ K.H

ミドリヒョウモン	豆醜	79, 9, 16	2♂ 2♀	M.E
クモガタヒョウモン	東里	79, 5, 28	1♂	T.T
ツマグロヒョウモン	東里	79, 5, 28	1♂	T.T
コミスジ	伊奈	79, 5, 6	1♂	H.K
	日吉	79, 4, 26	1♂	S.IH
	焼松	79, 5, 6	1♀	K.H
アカタテハ	一の丸	79, 5, 29	1♂	S.IH
	後山	79, 4, 12	1♀	K.U
	：	79, 4, 20	1♀	K.S
	：	79, 5, 5	1♂	K.S
	久須保	79, 9, 7	1♂	S.IH
ヒメアカタテハ	一の丸	79, 5, 6	1♂	K.S
	後山	79, 4, 12	1♂	J.N, S.IH
	：	79, 4, 20	1♂	K.U
リョウキョウ	イラサキ 仁田	79, 8, 16	1♀	糸頼政義
(パラオ島亜種)				
ルリタテハ	後山	79, 9, 7	1♀	J.N
スミナガシ	一の丸	79, 5, 27	1♂	Y.K
	念仏坂	79, 7, 30	1♂	：
ウラナミジャノメ	後山	79, 9, 8	2♀	J.N
ヒメジャノメ	後山	79, 9, 8	3♂	J.N
ジャノメチョウ	千徳藪山	79, 7, 29	13♂	S.IH, S.IV, J.N, Y.K, K.S

対馬産ラニ科植物の採集目録

国分清 (54年度)

対馬には日本ではここだけにしか見られない動植物が生息しています。
筆者が調査しているラニ科植物も九州では最も豊富な種類数がある
ことで有名である。
筆者がこの一年調査した結果を採集目録にしましたので参考にして
いただきたい。

採集地は次の通りである。

萩原町 : 竜良山・有明山

美津島町 : 加志太祝神社・白岳・城山・吹崎・箕形・州瀬

上原町 : 御岳

1. バニカメラン	白岳	79.4.29	/	K・K
2. セギコク	白岳	79.8.-	4	K・K
	有明山	79.11.20	/	M・E
3. ヤニラン	有明山	79.5.-	2	K・K
	今里(海岸付近)	不明	/	K・K
4. ギンラン	今里(海岸付近)	不明	11	K・K
5. ユウシュニラン	白岳中腹	79.4.29	/	K・K
6. シュンラン	竜良山小学校裏	79.5.-	3	M・E
	今里	79.9.2	3	K・K
	今里	79.3~79.11	20	K・K
	箕形	80.3.6	10	K・K
	州瀬	80.3.6	10	K・K
7. シュスラン	竜良山	79.5.-	/	M・E
	白岳	79.4.29	不明	K・K
	有明山	79.5.-	10	K・K
8. ビヤマウズラ	白岳中腹	79.4.29	不明	K・K
	白岳中腹	79.4.29	不明	K・K
	有明山	79.5.-	不明	K・K
	今里	79.-	不明	上野英文
9. サイハイラン	今里	79.-	3	K・K
	竜良山	79.5.-	2	M・E
	白岳	79.2.-	3	K・K
10. アギラン	白岳	79.4.29	3	K・K
	竜良山	79.5.-	2	M・E
	今里	79.2.-	10	K・K
11. マメツグラン	白岳	79.4.29	/	K・K
	白岳	79.8.-	/	K・K
12. ヨウラクラン	竜良山	79.5.-	3	M・E
	白岳	79.4.29	2	K・K

12. ヨウラクラン	有明山	79.5-	/	K. K
	御岳	79.7-	/	M. E
13. キエビキ	有明山	79.5-	/	K. K
	今里	79.12.29	/	K. K
	加志神社	79.4-	6	K. K
	加志神社	79.12.30	/	K. K
	箕形(城山)	79.4-	/	K. K
	箕形(城山)	79.5-	4	K. K
	州 漢	79.5-	10	K. K
14. ヒナラン	吹崎分校前	79.5-	10	K. K
15. カメラン	有明山	79.5-	/	K. K
16. オオバノ	有明山	79.5-	3	K. K
	トニボソウ			
17. キジバチ	今里	79.6-	10	K. K
	加志	79.7-	5	K. K

★ イニニヤル

江島正部 M. E
園分 清 K. K

韓国地学研修旅行を かえりみて

顧問 小柳考夫

昨年8月11日から8月16日迄、長崎県地学会主催の「韓国地学研修旅行」に参加したときの紀行文である。日本では見ることのない先カンブリア代の地層や、三葉虫の化石などを直接観察できたことに大きな感動を覚えたと同時に大きな収穫があった。以下簡単に紹介しよう。

日本にとって最も近い大陸であり、又隣国でもある韓国の大地が、対馬の北端からわずか5分程度で眼下に広がり始めた時、「近いなあ」というのが実感であった。しかも高度8千メートルがらの眺めは、見慣れた対馬の山々とよく似ており、山は深く、谷も複雑に入りこみ、平野がときどきのみほとんど目に入らず山又山の連続である。

韓国大学元教授の説明によると、韓国は北側が先カンブリア代、古生代の古い地層や花崗岩が多く、南部は中生代、新生代の地層が分布しているとのこと。地層にも対馬とのつながりを感じさせる。

花崗岩は大虫花崗岩と呼ばれ、広く分布しており、ソウル市街、原州、大田嶺に通ずる道路沿いに露頭がよく見られ、花崗岩特有の盆地地形も大規模に形成され、対馬の内山盆地を思い浮かべながら興味深く観察できた。

春川にほど近い春城ダムは15億トンの貯水量があり、7万KWの発電をしており、国境も近いことあって軍用の警備がものものしく感じられた。近くの内陸の地には先カンブリア代の硬岩の露頭が見られ、道路脇で採集できたが、自然保護の思想が徹底しており、ハンマーで露頭をたたくのはやめさせられている。山麓には各所に「自然保護」の看板が目についた。全行程を通して、山は緑に覆われ、植林もよくなされている。

現在はオンドル用の枝木を取る事さえ規制されているとのこと。国がいかに緑化を重視しているかがうかがわれた。

春城郡東山村には25億年前の黒雲母片麻岩が採集できたが、一口に25億年と言っても余りの古さに感覚的には、コンと二倍だった。半島の東海岸側にある大白山脈(半島を斜めに横切る東嶺山脈)は思った程高くないが、大陸の山よりしく雄大である。高速道路は南北、東西に伸び、よく整備されているが、江原高速道路は数年前に江陵迄開通したというので、山脈の峠にあたる高度800メートルの大興嶺には記念碑があり、冬はスキー場にもなっている。

日本海側の江陵市の南60Kmにあるセメント工場を中心地である三陟には、セメントプラント工場があり、三陟郡の中心地らしく、活気を呈し、工業大学もあって、工業には国も力を入れている様に感じられる。

国民学校、中学校等には「自主教育」、「忠孝」と言った看板が掲げられ設備も整っている様に思われた。

三葉虫化石産地、長省迄の道路は、湖山から山地に入った途端、予想以上の悪路で、途中何とか下車して道路の龜裂に石を埋めながらの走行で、運転手さんには感謝の気持ちで一ぱりだった。黄池は思ったより大きな炭鉱町で、活気はあるが、ごみごみした感じであった。山腹には炭層の露頭が各所に見られ、露天掘りと思われたが、長省の国営炭鉱では坑内掘りのことであった。韓国の石炭は二疊紀の寺洞統に属し、オルドビス紀下部から石炭紀下部迄地層が欠けているとのことである。

今回の研修で国営長省炭業所を見学できたことは非常に幸運だったと思う。海拔600メートルの炭鉱で、従業員6千名が交代で操業しており、月産18万トンと出炭量も多く、従業員住宅も立派なアパートが建ち並び、石炭産業全盛を感じさせる。炭業所の地質課長さんに長省附近の地質調査及び三葉虫化石採集等、案内していただいたが、先カンブリア代と古生代の不整合礫の観察、虫食いの石炭岩、朝鮮系上部、オルドビス紀の三葉虫化石の採集等、大変收護の多い地質調査ができた。三葉虫化石は不完全ながら多く採集でき、9月の文化祭に展示した際は昆虫学者の関心を集めた。旅行前に食事については気になっていたが、韓国料理は私の口によく合ったのか、大分おいしくいただく事が出来た。特に印象に残ったのはブルオギという焼肉、帰路ドライブインで食べたヒルペンというまぜ蕎麦、カラッソクスという蕎麦うどん等で、旅行中お世話いただいたガイドさんは食事が一番気を付けておられたが、日本料理に近く、お陰で体調もよく、食べ過ぎが気になる程であった。

観光としては、景福宮、国立博物館、何精寺等を見学できたが、いずれも立派に保存され、管理も行き届いており、處一つ見かけなかった。ソウル市街には高層ビルや立派な個人住宅も建ち並び、動乱以後の復興に目を見はるものがあるが、バス、自動車、服装等には華やかな面が見られず、準戦時体制下の厳しい生活の一面をのぞかせてくれた。

最後に、今回の研修に終始お世話いただいた郵務局の先生方、日本交通公社及び韓国グローバルツアーの皆様、教授、課長さんに厚く御礼申し上げます。

長崎県産アゲハチョウ科の食草の知見

江島正郎

1. 序

蝶類でもアゲハチョウ科は一般に個体数が多く、最もポピュラーな種群であるが、生活史については訪花や吸水、食草に関する断片的な報文は散見されるものの、必ずしも十分な知見が得られている訳ではない。しかも野外で一つの種の食草を調べると、高い種度で産卵される植物から、きわめて稀にしか食草に育らぬものまで様々認められる。しかしそれらを全て含め、野生種から栽培種まで“食草”として挙げられているのが実態である。

種による個体群密度の大小や地域による較差等を知るために野外における各植物をめぐる各種の種間関係を把握することが極めて重要な問題である。それを通し、各々の種のニッチが明らかになると考えられる。

方、“食草”ということに關してはすでに述べたことがあった(江島, 1979 d; 1980印刷中)が、再掲すると次の通りである。

従来、所謂“食草”ということの厳密な定義づけが行なわれたのではなく、漠然と幼虫が食したので食草、もしくは食性、食餌植物、食樹と呼んできたきらいがある。野外である植物上で卵や幼虫を採集したり、幼虫飼育時に与えたところ食した、といった様々な場合を含め、“食草”と呼んでいることも応々にして見受けられる。

筆者(江島など, 1973, 長崎県の蝶, P.4)は、野外での幼虫を採集し、その植物で全幼虫期を飼育できた時を食草と呼ぶ旨を記したことがあったが、その考えを十分浸透させて論述したわけではない。

こういった曖昧さは種そのものを考える上で大きな障害となり得る事も考えられ、ある程度きちんとした定義づけは不可欠であろう。

筆者は次のように考えている。

〈食性〉：種〔チョウ〕が全幼虫期、もしくは一時期を生活するために使用した植物—チョウを主体として考える—

〈食草〉：種〔チョウ〕によって全幼虫期、もしくは一時期を生活するために使用された植物—植物を主体として考える—

食草は次のように細分することができる。

a 基本食草：種が世代を交代させるために不可欠な植物

a—1：種の維持にとって最も不適当な成長時期に使用される植物

a—2：一定の生息域を維持するために利用する植物、もしくはその種がある地域に分布するようになった時に使用したと考えられる植物。

a—3：訪花等のために二次的に拡がった生活空間ではなく、その種本来の生活域〔生活空間〕で使用している植物

a—4：最も高い頻度で種が利用している最も普遍的に自生する植物

しかし基本食草は地域によって変動することもあり、その植物は一種だけでなく数種であったり、数種にまたがることもある。

b 代償食草

基本食草から食性を転換させた植物。種が世代を交代させるために利用しているが、地域や時期で異なっていることもある。これによって広範な分布域を獲得した種も多い。

c 異常食草

野外で産卵されることもあって、実際にその植物で世代を交代させていない植物や、交代させることができない植物。この植物では幼虫期の成長速度が劣ることもあるが、全幼虫期を完全に飼育できる場合もある。

d 代用食草

飼育時に与えると全幼虫期もしくは一時期を成長させることができるが、野外では産卵されることがない植物。

以上のように

①野外で世代を交代させることができるだけの食草となっているか否か

②与えると全幼虫期もしくは一時期をそれで飼育できるか

という2点の確認が特にポイントになると思われる。従って先ほど述べたような卵および幼虫を野外で見つただけで、全幼虫期を飼育していないような場合は、“産卵食草”“幼虫食草”〔新称〕とでも呼ぶべきであろう。

本県でもここ10年ほどで蜂類の生態に関する研究が進み、アゲハチョウ科についても後藤安一郎氏を始め、宇家泰一郎・田代肇人・布袋厚の3君や筆者らで多くの知見が蓄積されている。

これらの記録をもとに本県でのアゲハチョウ科各種の食草について記してみた。

発表に際し、色々にご教示いただいた前述の4氏には改めて厚くお礼申し上げます。

<凡例>

- ・採集者と報告者とが同一な場合は報告者とその年代のみを記した。
- ・個体数は3段階(Ⅲ, Ⅱ, Ⅰ)で、個体の新鮮度は4段階(Ⅳ-Ⅰ)で表わす(Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ)。非常に多いから少ないまで、非常に新鮮から汚損まで表現した。
- ・西彼杵郡の地名のみは“西彼”と略した。
- ・種の解説の次に記したものが、本県で観察された幼生(蛹を除く)の全記録である。

2. 長崎県産アゲハチョウ科の食草の知見

1. ジャコウアゲハ

対馬・寺崎・五島・平戸を含む県下全域に分布し、山地帯から平地まで広く発見される。ただ対馬ではきわめて局地的で、北端部の上県郡上対馬町豊～落土を中心に、河内・鯉浦・泉・比田勝で発見されているだけである。このように偏って分布する理由は全く不明であるが、ツシマウラボシシジミが北部に偏在することを考え併せると、面白い現象である。

成虫はマイグレーションは行き来が、移動性はあるらしい。食草のウマノスズクサ・オオバウマノスズクサが自生する疎林～樹林から離れ、低山地の山頂部、林間の空間や草原などに出現し、各種植物を訪花するのが観察されるが吸水性は無い。分布地はこのように広いが、長崎市街地のように開け過ぎていたり、食草が乏しい場所では個体数は少ないようである。夕良・雲仙のような山地帯でも、山頂で独得を飛び方で飛翔する個体が目撃される。それら個体群は山麓から山頂部へ集まって来たものと考えられ、山頂部(山地帯上部)が本来の生息域とは理解し難い。

食草はウマノスズクサ科のウマノスズクサ及びオオバウマノスズクサであるが、前者は林床から林縁までの暗い所から明るい環境までやや幅広い自生域があるのに対し、後者は暗い林床に自生する。従って本種との結びつきは前者の方が強いと考えられ、また自生量も前者が勝っている。すなわち基本食草はウマノスズクサで、オオバウマノスズクサは代償食草と考えられる。

・ウマノスズクサ

- ・ 74. 5. 12 長崎市岩屋神社 1♀が産付 (江島, 75c)
- ・ 73. 6. 2 大村市小路口郷 1終令 (宇家, 78)
- ・ 74. 6. 9 〃 黒木郷 4令lex (江島, 75c)
- ・ 74. 6. 9 〃 〃 4令lex (布袋, 77a)
- ・ 72. 6. 14 〃 久原郷 1終令 (後藤, 75c)
- ・ 71. 7. 7 〃 諏訪郷 卵・幼虫 (後藤など, 71)
- ・ 69. 7. 20 長崎市岩屋神社 卵・幼虫多数 (宇家, 78)
- ・ 71. 7. 19-21 上五島野崎島 幼虫 (江島, 71d)

・オオバウマノスズクサ

- ・ 70. 5. 5 西彼野母崎町観音寺 15卵 (宇家, 78)
- ・ 75. 6. 9 長崎市中里郷 4令lex (江島, 78a)
- ・ 73. 6. 12 〃 江平町 1初令 (布袋, 77a)

オオバウマノスズクサ [長崎市金比羅神社](江島など, 73)の記録もある。

2. アオスジアゲハ

村馬・巻岐・五島を含む県下各地で極めて普通に産し、個体数はアゲハ科のうち料では最も多い方に属する。平地から産地まで分布域は広く、市街地でも多いが、あまり開け過ぎていような向陽地や、聖仙の山頂部などでは減少する。本来の生息地は樹林内や樹林的环境と考えられるが、訪花や吸水のため、近くの草原などにも現れる。食草は本来の生息地であるうす暗い樹林内のタブノキが最も普遍的に利用され、これが基本食草であると考えられる。タブノキよりも明るい環境に自生するクスノキは、成虫が訪花・吸水活動に伴って生活圏を拡大した時に利用する代償食草であろう。ホソバタバ・ヤブニツケイ、シロモジはクスノキより更に利用頻度がひくく、同様に食性を転換させた結果であろう。

・タブノキ

- ・ 74. 5. 6 福江市住吉神社 2令幼虫 1ex 田代(中島など, 75)
- ・ 74. 6. 3 島原市島原農高 葉裏に前蛹 (江島, 75c)
- ・ 73. 6. 12 長崎市金比羅山 1♀が2卵産付 (江島, 74c)
- ・ 77. 7. 22 下県郡徽原町阿連 10卵 (江島, 78g)
- ・ 72. 7. 28 大村市雄ヶ原 1♀が3卵産付 後藤(江島など, 73)
- ・ 77. 7. 29 徽原町有明山 1卵 (江島, 78g)
- ・ 78. 8. 1 上五島中通島三王山 1初令 (江島, 78g)
- ・ 77. 8. 6 徽原町有明山 1終令 (江島, 78g)
- ・ 73. 8. 7 大村市小路口郷 4卵 (後藤, 75c)
- ・ 75. 8. 10 中五島若松島龍観山 1♀卵産付。多数の卵, 幼虫 2exs (長崎東高校生物部, 76c)
- ・ 75. 8. 11 上五島中通島米山 卵多数 (長崎東高校生物部, 76c)
- ・ 73. 8. 12 多良山系とどろきの滝 1卵 (布袋, 78a)
- ・ 75. 8. 16 福江島富江町番所山 5卵 1幼虫 (田代, 76d)
- ・ 77. 8. 16 長崎市岩屋山 2終令 (江島, 78a)
- ・ 77. 8. 18 富江町 1卵 田代, 3令 1ex 江島(江島, 78a)
- ・ 73. 8. 23 徽原町有明山 1終令 (江島, 78g)
- ・ 74. 8. 30 長崎市岩屋山 1卵 (江島, 75c)
- ・ 72. 9. 18 " 金比羅山 1幼虫 (布袋, 77a)
- ・ 76. 9. 23 福江市奥浦 1♀が産付 (後藤, 76a)
- ・ 73. 10. 7 " 住吉神社 1♀が1卵産付 江島・里山俊哉, 本村-実, 田代博人(江島, 74c; 74c)

・ホソバタバ(アオガシ)

- ・ 77. 8. 18 福江島富江町 1卵殻 田代・江島(江島, 78a)
- ・ 74. 8. 30 長崎市岩屋山 3卵 (江島, 75c)

・クスノキ

- ・74. 5. 5 福江市福江空港 3卵 田代(中島など, 75)
- ・74. 5. 26 多良山系露ノ滝 3令1ex 田代(中島など, 75)
- ・71. 5 長崎市昭和町 若令散頭 (宇家, 78)
- ・75. 6. 10 坂本町 3令1ex (布袋, 78a)
- ・70. 6. 27 妙相寺付近 4令1ex, 3令1ex (宇家, 78)
- ・74. 7. 14 大村市大村公園 4-5卵が産付 (後藤, 75g)
- ・70. 7. 26 長崎市坂本町付近 2終令 (布袋, 77a)
- ・75. 8. 19 福江市下大津町 産卵 (後藤, 75f)
- ・75. 8. 22 奥津 2卵が産付 (後藤, 75f)
- ・73. 8. 25 長崎市千々 2幼虫 (布袋, 78a)

・ヤブニツケイ

- ・75. 6. 1 大村市黒木郷 産卵 (後藤, 75g)
- ・73. 6. 24 長崎市彦山 2卵5幼虫 (宇家, 78)

・シロモジ

- ・77. 11. 23 長崎市三原町マリア山 1死蛹[業上] (宇家, 78)

タブノキ[福江市](田代, 75a), ヤブニツケイ[長崎市住吉町](江島など, 73), クスノキ[大村市武部郷田ノ平](井手など, 71a)の記録もある。

3. ミカドアゲハ

対馬および県本土で採集されているが、分布地は主にオガタマノキが散在する樹林やその周辺である。この植物は県下各地で散見され、本種が未発見の壱岐・五島・平戸などでも自生するが、詳細については調査不足である。しかし霊仙白雲池(800m)や多良山麓黒木郷(300m)でも本種が見られているところを見ると、オガタマノキはかき山地区で自生し、本種も広く分布することが予想される。

本種の食性とその転換現象については以前述べた(江島など, 1973; 江島, 1977c) ことがあり、要約すると次の通りである。

他県ではオガタマノキが主食草で、たとえタイサンボクが同じ場所に植えられていても後者を食草とすることは稀という報告もあるが、長崎市やその周辺の西彼杵郡時津町・長与町、野田崎町では全く当てはまらない。ここ20年間で本種の分布域が著しく拡大しているが、その原因は基本食草のオガタマノキから、栽培種で代償食草のトウオガタマ[一部; 長崎市諏訪神社], コブシ[1例のみ; 長崎市諏訪神社], タイサンボクへ食性を変化させたことであろう。もちろん、市近郊での急激な開発によって、本来の分布地と市街化地とが接するようになったことで、これを助長したことは十分うなづけよう。

分布記録がない平戸・北松浦郡～松浦市，東彼杵郡，北高来郡をどでもオガタマノキは自生し，本種の成虫も必ず発見できると確信している。5月上旬～中旬の葉1化の時期に吸水・訪花に際するのを見つけてるのが最も目安としよう。

対馬では下県郡の山地帯を中心として局地的に分布し，オガタマノキや一部タイサンボクでも幼虫は得られた。オガタマノキは上県郡にも自生するが，本種は未発見であるが，分布している可能性もある。

4. キアゲハ

対馬・壱岐・五島・平戸を含む県下各地に分布し，最も普遍的な種である。アゲハチョウ科でもアゲハ，ナガサキアゲハなどは市街地化された場所に対してのに対し，本種は畑地，樹林，疎林周辺の草原や海岸地帯に現われて各種植物を訪花する。対馬ではかなり個体数が少なく，厳原町有明山山頂や一の丸山頂など山頂部に集まる谷以外は，ほとんど採集できない。海岸の各種セリ科もそれほど多いものではなく，また幼虫も全く発見できていない。対馬はセリ・ミツバが自生するような湿潤な場所に乏しいことや，ニンジンも栽培する畑地が多くないことが要因の一つに数えられる。その他野生のセリ科のツシマノダケなどとの関連については今後明らかにしていかなければならないと考えている。

食草の生育地は主として湿潤な場所であるが，成虫は草原をどかなり乾燥した向陽地にも現われ，谷は山頂部の空地や林間に開けた場所に集まって占有行動をすることはよく知られたところである。ただし低山地～山地で得られた個体群は多くで生育したものではなく，海岸地帯で発生したものが一部混ざっていることも考えられるが，具体的資料に乏しい。海岸地帯ではハマボウフウ，ハマゼリ，ハマウド，ボタンボウフウを食草とし，夏季～初秋季には腫しい幼虫が見られることも少なくない。ただ海岸地帯が本来の生活場所であるかは問題が多い。平地では夏季に近づくにつれて乾燥し，水辺のミツバやセリが減少する。併せて本種には広い行動圏をもつことができる習性があり，それら海岸の個体群は，平地から進出したものであると理解している。平地ではミツバやセリが最もよく利用され，栽培種のニンジン，パセリ，ウイキョウや，近年著しく自生地を拡大している外来種のマツバゼリも高い頻度で食草とする。低山地～山地帯ではミツバを，聖仙山系のような標高1000mを越す山地帯ではシロウドを食している。また県下でもやや稀な方に属するハナウドも記録されているが，これは地域的な食草と考えられる。好適な食草ではないが，ナツミカン，サンショウ，カラスザンショウウミカン科植物も食草として記録されている。これらでは生育が悪く，全幼虫期を飼育することは可能でも，自然界で世代を交代させている可能性はきわめて低い。異常食草と推定される。

このように海岸地帯から山地帯まで食性を転換させ，外来種や栽培種を食することで広い範囲にわたって分布することが可能となっている。基本食草は広範囲の分布域を支えているミツバと推定される。

・ニンジン

- ・72. 5. 24 長崎市浜平町 13幼虫 (布袋, 77a)
- ・74. 5. 26 大村市並松郷 18卵 (後藤, 75g)
- ・74. 6. 1 " " 2令1ex (後藤, 75g)
- ・74. 6. 22 " " 1卵が産付 (後藤, 75g)
- ・73. 6. 24 長崎市住吉町 2令1ex (江島, 74c)
- ・73. 8. 4 大村市並松郷 1卵が産付, 4卵, 1初令 (後藤, 75g)
- ・74. 8. 16 " " 2終令 (後藤, 75g)
- ・73. 9. 16 長崎市住吉町 2令1ex (江島, 74c)
- ・73. 9. 19 " 金比羅山 1終令 (江島, 74c)
- ・73. 9. 25 " 若屋山 3令1ex (江島, 74c)
- ・74. 9. 28 大村市諏訪郷 2卵が産付 (後藤, 75g)
- ・74. 9. 29 長崎市宮棚 卵が産付 (後藤, 75g)
- ・74. 10. 6 " 金比羅山 20終令 田代(中島など, 75)
- ・73. 11. 6 " " 3令1ex (江島, 74c)

・パセリ

- ・74. 5. 28 長崎市住吉町 2令1ex (江島, 75c)
- ・72. 9. 29 大村市並松郷 1終令 (後藤, 75c)

・ウイキョウ

- ・75. 5. 26 福江市下崎山町 1終令 (後藤, 75f)
- ・75. 5. 31 " " 1卵が産付, 2中令(後藤, 75f)
- ・75. 6. 7 " " 3若令 (後藤, 75f)
- ・75. 6. 30 " " 卵・幼虫多数 (後藤, 75f)
- ・75. 7. 2 " 鬼岳 2終令, 4令3exs, 3令7exs, 2令4exs
1初令 (後藤, 75f)

・ミツバ

- ・76. 5. 30 長崎市諏訪神社 2幼虫 (布袋, 78)
- ・71. 6 下旬 大村市諏訪郷 1終令 (後藤など, 71)
- ・75. 7. 7 福江市下大津町 1終令, 4令1ex 若令多数
(後藤, 75f)
- ・70. 7. 19 西彼長与町嬉里 中令多数 (布袋, 77a)
- ・74. 7. 19 大村市中里郷 3終令, 死体1ex (後藤, 75g)
- ・74. 7. 20 長崎市古賀木場 3令1ex (田代, 75f)
- ・72. 8. 17 多良山泉金泉寺 1終令 (江島, 78a)
- ・72. 9. 3 西彼三知町蚊塊 1幼虫 (宇家, 78)

・セリ

- ・75. 7. 6 福江市上大津町 1卵が産付, 2令1ex (後藤, 75f)
- ・75. 7. 10 " " 3令1ex (後藤, 75f)
- ・75. 8. 22 " 奥津 7卵が産付 (後藤, 75f)

マツバゼリ

- ・75. 5. 23 福江市下大津町 1卵が産付, 1中令 2若令(後藤, 75f)
- ・74. 5. 24 大村市大村公園 4令1ex, 2令1ex(後藤, 75g)
- ・71. 5~6 長崎市浜平町 1中令 (布袋, 77a)
- ・74. 7. 14 大村市大村公園 2-3令幼虫多数(後藤, 75g)

ハマボウフウ

- ・71. 7. 19-23 上五島野崎島 幼虫 (江島, 71e)
- ・74. 8. 12 福江市大分 3令幼虫1ex 田代(中島きど, 75)
- ・74. 10. 6 長崎市千々 13終令, 卵・若令・中令多数(田代, 75f)
- ・74. 9. 13 or 10. 26 西彼野母崎町樺島 幼虫数頭(宇家, 78)

ハマゼリ

- ・71. 8. 9 北松・鷹島 幼虫多数 池崎善博(池崎, 72a)

ハマウド

- ・75. 5. 24 福江市下崎山町 4終令 (後藤, 75f)
- ・76. 6. 6 " アブンゼ 幼虫多数 (後藤, 76a)

ボタンボウフウ

- ・75. 6. 7 福江市下崎山町 2終令 4令 3exs (後藤, 75f)
- ・79. 6. 12 西彼崎戸町 2幼虫 浦田明夫(浦田, 79d)
- ・75. 11. 11 福江市アブンゼ 1終令 3令 2exs (後藤, 75f)

ハナウド

- ・75. 5. 31 福江市下崎山町 終令 3exs, 4令 2exs, 若令多数 (後藤, 75f)
- ・75. 6. 1 " " 幼虫多数 (後藤, 75f)

ナツミカン

- ・74. 5. 5 福江市福江空港 5卵 田代(中島きど, 75)

カラスザンショウ

- ・75. 8. 3 西彼時津町元村郷 (初令 (布袋, 77e))

ニンジン[福江市](田代, 75a), [大村市](井手きど, 71a), [長崎市三原町](宇家, 78), パセリ[長崎市三原町](宇家, 78), ミツバ[多良山系金泉寺](江島きど, 73), [福江市](田代, 75a), [長崎市三原町](宇家, 78), マツバゼリ[福江市宗念寺](江島きど, 73) ハマゼリ[福江市](田代, 75a), ボタンボウフウ[福江市大浜海岸, アブンゼ海岸, 大分海岸, 福江島富江半島南端海岸](田代, 75a), シシウド[聖仙](江島きど, 73), サンショウ[福江市](田代, 75a) の記録もある。

5. アゲハ

丹馬・巻岐・五島・平戸を含む県下各地の平地から山地にかけ広く分布し、最も個体数が多い種である。樹林内よりやや開けた場所を好み、各種植物を訪花し、吸水する。野生ミカン科ではカラスザンショウ、イヌザンショウ、サンショウの記録が多く、フユザンショウ、キハダ、ハマセンダンも部分的である。成虫の個体数が多く、樹林伐採後に生じた空地がどの向陽地が本来の生活場所と考えられる。このような環境ではカラスザンショウがイヌザンショウやサンショウより多く自生するので、この植物が基本食草と考えられる。イヌザンショウや、それよりも少ないサンショウ、稀な種に属するフユザンショウはいずれも部分的な代償食草であろう。キハダは多良山系で、ハマセンダンは長崎市周辺の海岸部での地域的な代償食草である。さらに人家付近ではウンシユウミカン、ナツミカン、カラタチを中心に、ユズ、ダイダイ、キンカン、レモンなどの栽培ミカン科と強く結びつき、この種の個体群のかなりの部分がこれに依存していることが考えられる。セリ科のミシウドでも産卵が記録されているが、この植物では全幼虫期を飼育できず、異常食草とみなされる。このように野生ミカン科に加え、栽培ミカン科を食することで都市型環境に最も強い種であると言えよう。

・カラスザンショウ

- ・75. 5. 19 長崎市中里町 2令 2exs (江島, 78g)
- ・74. 5. 26 多良山系轟ノ滝 4令 1ex 田代(中島など, 75)
- ・73. 6. 3 多良岳 1-3令多数 (江島, 74c)
- ・74. 6. 3 長崎市三原町マリア山 幼虫数頭 (宇家, 78)
- ・73. 6. 9 " 住吉町 2令 1ex (江島, 74c)
- ・75. 6. 9 大村市中岳郷南川内 1終令 (今里, 75d)
- ・73. 6. 10 多良山系轟ノ滝 3-終令 3exs (江島, 74c)
- ・77. 6. 18 下県郡美津島町大船越 1卵, 4令 1ex (江島, 78g)
- ・73. 7. 15 長崎市住吉町 1卵が3卵産付 (江島, 74c)
- ・73. 7. 29 " " 3令 1ex (江島, 74c)
- ・78. 8. 1 上五島中通島三王山 2令 1ex (江島, 74c)
- ・73. 8. 9 長崎市住吉町 1-2令 7exs (江島, 74c)
- ・73. 8. 14 " " 5令 1ex, 3令 5exs, 3卵 (江島, 74c)
- ・73. 10. 7 福江市戸祭町 2令 1ex (江島, 74c)
- ・73. 10. 28 長崎市住吉町 2令 1ex, 3終令 (江島, 74c)

・フユザンショウ

- ・75. 7. 29 上県郡上野馬町舟志 1卵が1卵産付, 1卵 3幼虫 (江島, 78g)

・イヌザンシヨウ

- ・78. 4. 8 下県郡葦原町豆蔵 1♀が1卵産付 (江島, 78g)
・71. 5. 16 聖仙ゴルフ場 幼虫数頭 (布袋, 78)
・74. 5. 26 長崎市八郎岳 1終令 (守家, 77a)
・75. 7. 30 上県郡上県町千俵蒔山 2令1ex (江島, 78g)
・74. 8. 23 長崎市金比羅山 2令1ex (江島, 75c)

・カンシヨウ

- ・77. 4. 26 下県郡葦原町豆蔵 卵・初令 鏡嶽(鈴木, 77)
・70. 5. 6 大村市玖島郷片町 1♀が産卵 松尾圭一(井手など, 76a)
・71. 7. 22 " 並松郷 幼虫 後藤(後藤さど, 71)
・76. 11. 7 長崎市沃平町 3令1ex (布袋, 78)

・キハダ

- ・73. 6. 3 夕良岳 1-3令多数 (江島, 74c)

・ハマセンダン

- ・78. 5. 26 西彼野母崎町権現山 卵~若令 (守家, 78)
・74. 6. 3 長崎市三原町マリ下山 幼虫数頭 (守家, 78)

・ナツミカン

- ・75. 4. 6 西彼外海町黒崎 1♀が1卵産付 (江島, 78a)
・74. 5. 5 福江市福江空港 産卵 田代(中島など, 75)
・75. 5. 7 長崎市西山町 卵少量 (江島, 78a)
・75. 5. 19 " 中里町 2令2exs (江島, 78a)
・74. 5. 25 " 並松郷 1終令 (後藤, 75g)
・76. 5. 30 " 岩屋神社 幼虫 (守家, 78)
・75. 6. 22 " 岩屋山 1前蛹 (江島, 78a)
・75. 6. 22 " 若竹町 1前蛹 (布袋, 77a)
・74. 9. 24 " 住吉町 1卵 (江島, 75c)

・カラタケ

- ・72. 4. 23 長崎市坂本町 7幼虫 (布袋, 77a)
・76. 5. 7 " 上小島町 5卵, 1初令 (布袋, 78)
・76. 5. 11 " " 1卵 (布袋, 78)
・76. 6. 3 " 緑町 4令1ex (布袋, 78)
・74. 8. 27 " 金比羅山 産卵 田代(中島など, 75)

・ユス

- ・73. 4. 22 大村市並松郷 1♀が3卵産付 (後藤, 75c)
・77. 5. 2 " 原口町 1♀が産卵 (後藤, 78a)
・74. 5. 4 " 並松郷 2令1ex (後藤, 75g)
・71. 8. 27 " " 幼虫 (後藤など, 71)

ワンシユワミカン

72. 4. 19	長崎市鏡座町	1卵	(布袋, 77a)
72. 5. 2	大村市久原郷	2-3卵が産卵	(後藤, 75c)
76. 5. 7	長崎市上小島町	2令1ex	(布袋, 78)
76. 5. 11	"	1初令	(布袋, 78)
76. 5. 13	"	1初令	(布袋, 78)
76. 5. 14	"	2令1ex	(布袋, 78)
76. 5. 15	" 鏡座町	1初令, 2令2exs, 3令4exs, 3終令	(布袋, 78)
76. 5. 16	" 緑町	1初令, 2令3exs, 4令1ex	(布袋, 78)
76. 5. 17	" 上小島町	2令1ex	(布袋, 78)
76. 5. 19	" 鏡座町	1初令, 2令1ex, 3令1ex, 1終令	(布袋, 78)
76. 5. 22	" 上小島町	4初令, 2令4exs	(布袋, 77a)
76. 5. 23	福江市鬼岳	1終令	(後藤, 76a)
74. 5. 25	長崎市馬町	5幼虫, 2虫	(田代, 75c)
77. 5. 27	" 上小島町	2初令	(布袋, 78)
75. 5. 30	" 上小島町	3卵, 2令2exs, 3令3exs, 4令2exs	(布袋, 77a)
76. 5. 30	" 岩屋神社付近	幼虫数頭	(宇家, 78)
75. 6. 4	" 上小島町	2令8exs	(布袋, 77a)
75. 6. 11	"	2終令	(布袋, 77a)
75. 6. 21	"	2令6exs	(布袋, 77a)
74. 6. 30	" 中川町	5-6卵産付	(田代, 75c)
75. 6. 30	" 鏡座町	1卵, 3初令, 2令1ex	(布袋, 77a)
75. 7. 2	" 上小島町	1卵, 2初令	(布袋, 77c)
75. 7. 4	"	2卵	(布袋, 77c)
75. 7. 5	"	2卵	(布袋, 77c)
75. 7. 7	"	3卵, 7初令, 2令5exs	(布袋, 77c)
75. 7. 9	"	1初令, 2令2exs	(布袋, 77c)
76. 7. 11	福江市赤島	♀産卵	(後藤, 76a)
76. 7. 16	長崎市鏡座町	2卵, 1初令	(布袋, 78)
75. 7. 25	" 上小島町	13卵, 2初令, 2令2exs	(布袋, 77c)
75. 8. 26	"	5卵, 3令1ex, 1終令	(布袋, 77c)
75. 8. 28	"	8卵	(布袋, 77c)
75. 9. 7	" 鏡座町	1終令	(布袋, 77c)
75. 9. 14	" 上小島町	8卵, 3初令	(布袋, 77c)
75. 9. 15	"	6卵, 4初令, 2令1ex	(布袋, 77c)
75. 10. 8	"	1終令	(布袋, 77c)

・ダイダイ

・75. 9. 29 大村市乾馬場郷 1 終令 今里 健 (今里, 75a)

・キンカン

・71. 8. 26 大村市武部郷 1 卵 井手敏晴 (後藤など, 71)

・シミウド

・69. 5. 28 聖仙普賢岳山頂付近 約10卵 (江島, 71a)

カラスガンショウ [福江市] (田代, 75a), サンショウ [福江市] (田代, 75a), [長崎市三原町] (宇家, 78), カラタケ [福江市] (田代, 75a); ナツミカン [福江市] (田代, 75a), ユズ [長崎市三原町] (宇家, 78), ダイダイ [長崎市三原町] (宇家, 78), キンカン [長崎市三原町] (宇家, 78), レモン [長崎市三原町] (宇家, 78) の記録もある。

6. モンキアゲハ

対馬・長崎・五島・平戸を含む県下各地に広く分布し、最も個体数が多い種の1つである。アゲハ、クロアゲハなどと共に低山地や市街地の周縁が分布の中心であるが、山地ではクロアゲハより個体数は少なくする。吸水性も大きく、各種植物を訪花するのがよく観察できる。

本県産 Papilio 属では本種が最もカラスガンショウを好み、これが基本食草であることは疑いがない。ハマセンダン は本県南部海岸地帯での代償食草である。

栽培種でも幼虫は得られ、ウンシュウミカン、ザボン、ナツミカン、ユズ、レモン、ダイダイなどが報じられているが、それほど好適なものではない。食草はカラスガンショウが中心であるため成虫の行動圏もこの植物が自生するような疎林的環境や、樹林伐採後の場所であり、かなり向陽地を好む習性がある。

本種の幼虫はかなり耐寒性が大きいらしく、10月となり、カラスガンショウから Papilio の幼虫が姿を消していく中で、最後まで生き残っていることがある。10月下旬～11月中旬まで生息できるのは本種だけで、12月上旬まで終令幼虫が見られた年もある。

・ハマセンダン

・78. 5. 26 西彼野母崎町権理山 2卵 (宇家, 78)

・74. 6. 3 長崎市三原町マリア山 幼虫数頭 (宇家, 78)

・ウンシュウミカン

・72. 5. 8 長崎市石神町 1 幼虫 (布袋, 77a)

・74. 6. 4 〃 岩屋神社 若令～4令数頭 (宇家, 78)

・ザボン

・74. 6. 4 長崎市岩屋神社 若令～4令数頭 (宇家, 78)

・ナツミカン

・76. 5. 30 長崎市岩屋神社 若令数頭 (宇家, 78)

・カラスザンショウ

- ・74. 5. 11 大村市諏訪郷 2子が産卵 (後藤, 75g)
- ・74. 5. 26 " " 1子が産卵 (後藤, 75g)
- ・74. 5. 26 長崎市八郎岳〜小ヶ倉北源池 8卵(布袋, 77a)
- ・78. 5. 26 西彼三和町為石 3令1ex (宇家, 78)
- ・73. 6. 9 長崎市住吉町 3令1ex (江島, 74c)
- ・74. 6. 9 大村市諏訪郷 1卵 (後藤, 75g)
- ・77. 6. 18 下県郡美津島町大船越 1卵 (江島, 78g)
- ・73. 9. 23 福江市久留島白岳 1終令 (田代, 75f)
- ・73. 9. 23 " " 又賀〜大開 5若令, 9卵(田代, 75f)
- ・73. 10. 28 長崎市住吉町 3令2exs, 4令2exs, 1終令(江島, 74c)
- ・73. 11. 11 " " 2終令 (江島, 74c)
- ・73. 11. 18 " " 2終令 (江島, 74c)
- ・73. 12. 9 " " 2終令 (江島, 74c)

[以上4例はクロアゲハと報告済み]

レモン[長崎市三原町](宇家, 78), ユズ[長崎市三原町](宇家, 78), ダイダイ[長崎市三原町](宇家, 78), の記録がある。

7. クロアゲハ

対馬・壱岐・五島・平戸を含む県下各地で発見される。本種は樹林内や林縁のようなやや暗い環境を好むが、訪花や吸水のためのメのような所を離れて向陽地や人家近くにも出現することも多い。食草についてはカラスザンショウの記録が多いが、頻度はアゲハやモンキアゲハより低い割合でしか幼生が発見されない。本種本来の生活場所からカラスザンショウは二次的に生活域を拡大した個体群が利用しているものと考えられる。山地部でのミヤマシキミ、多良山系のキハダやミヤマシキミ、本県南部海岸地帯のハマセンダンが地域的な代償食草、サンショウが基本食草と考えられる。栽培種ではウンシュウミカン、ナツミカン、キンカン、ザボン、カラタチ、ユズ、ダイダイ、レモンが記録されているもののアゲハやナガサキアゲハのような強い結びつきはないようである。

多良山系の標高800m付近まではカラスザンショウが食草となっていることを確認しているが、それ以上の場所や霊山山系など標高1000m内外の山頂部には代償食草のミヤマシキミやキハダ[多良山のみ]も自生せず、本種の姿も見られないようである。

・カラスガンシヨウ

- ・74. 5. 20 大村市久原郷 4令2exs (後藤, 75g)
- ・74. 5. 26 " 諏訪郷 1♀が1卵産付 (後藤, 75g)
- ・73. 6. 3 多良岳 1-3令多数 (江島, 74b)
- ・74. 6. 3 長崎市三原町マリア山 若令数頭 (宇家, 78)
- ・73. 6. 8 " 住吉町 3令1ex 1終令 (江島, 74b)
- ・75. 8. 9 中五島若松島龍観山 4令1ex (長崎葉高生物部, 76b)
- ・73. 9. 9 長崎市宮指 2令2exs, 3令3exs (江島, 74b)
- ・73. 9. 23 福江市久賀島久賀〜大開 1終令 (田代, 75f)

・サンシヨウ

- ・72. 5. 28 大村市大多武 1♀が産付 (後藤, 75c)
- ・71. 7. 11 多良山系金泉寺 2幼虫 (宇家, 78)
- ・75. 7. 24 下県郡豊田町和多津美神社 1♀が産付 (後藤, 77a)

・ミヤマシキミ

- ・77. 6. 7 下県郡巖原町有明山 1♀が2卵産付, 1卵殻 (江島, 78g)

・ハマセンダン

- ・78. 5. 26 西彼野田崎町権現山 卵〜若令 (宇家, 78)

・キハダ

- ・73. 6. 3 多良岳 1-3令多数 (江島, 74b)

・ウンシユウミカン

- ・72. 5. 2 大村市久原郷 卵が産付 (後藤, 75c)
- ・77. 5. 27 長崎市上小島町 3令1ex (布袋, 78)
- ・76. 5. 30 " 岩屋神社 若令数頭 (宇家, 78)

・ナツミカン

- ・74. 5. 25 大村市久原郷 4令1ex (後藤, 75g)
- ・76. 5. 30 長崎市岩屋神社 若令数頭 (宇家, 78)

・キンカン

- ・71. 8. 26 大村市武部郷 産卵 井手敏晴 (後藤まど, 71)

カラスガンシヨウ [多良山系黒木郷ハ丁杉] (布袋, 77a), ナツミカン [福江市] (田代, 75a), カラタチ [福江市] (田代, 75a), ザボン [長崎市三原町; 岩屋神社] (宇家, 78), ヌズ [長崎市三原町] (宇家, 78), ダイダイ [長崎市三原町] (宇家, 78), シモン [長崎市三原町] (宇家, 78) の記録もある。

8 オナカアゲハ

県本土の低山地～山地に見られる種で、四見山・多良山・雲山など標高が500 m以上の山地帯では稀ではない。近年、山地帯でも伐採が進み、本種の個体数が著しく減ったことは否めず、吸水や訪花のために飛来した若干の個体が採集できるだけである。平地では非常に局地的で、佐世保市安岩山、長崎市江平町、同金比羅山の計3ヶ所で発見されたに過ぎない。

本県ではサンショウとイヌサンショウから幼虫が発見されているが、他県での主食草のコクサギについては今後の調査に待つところが大きい。コクサギ自体の分布は前述山地帯のみで、本種が平地では著しく局地的になる理由もそこに求められると思う。サンショウ・イヌサンショウは二次的を食草、代償食草にすぎないであろう。壱岐・五島・平戸など島嶼部では確実に記録はなく、今後発見される可能性は乏しい。

・サンショウ

・72. 8. 25 多良山系金泉寺 1終令 (布袋, 77a)

サンショウ [多良山系金泉寺] (江島など, 73), イヌサンショウ [雲山] (江島など, 73) の記録もある。

9. ナガサキアゲハ

県本土では平戸島を含め、平地～低地の人家付近といった明るく、乾燥した環境を好み、普通に採集される。成虫は訪花や一部吸水のために移動することはあるが、その距離は大きくない。四見山、雲山山系など山地帯では発見されておらず、多良山系でも山麓の4地点で汚損した卵のみが発見されているにすぎない。また対馬・壱岐・五島など島嶼でも稀な種の1つで、壱岐では全く記録を欠いている。

本種の幼虫は野生ミカン科では全く発見されず、ナツミカン・ザボン・ダイダイ・ユズ、キンカン、ウンシュウミカン、レモン、カラタチなど栽培種に限定されている。

一方島嶼産の個体群は本土産と形態的差異を見出すことができない。分布域や食性面からも考慮すると、少なくとも島嶼産の個体群については食樹となる植物の移植に伴う移入種と考えた方が妥当であろう。その時期は定かでないが、戦前～戦後を通し、幾度かの移入があったと推定される。本土産についてもその可能性が高いと考えられる。

単なるミカン科の栽培開始時期と成虫発見の推移といった理由にとどまらず、移入種であるための客観的要因を備えているかが今後の課題となる。形態的を面だけでなく、光周反応や食性・行動面での地域的分化が認められるか、また移入種であればそれを可能とした生態的要因があるか否かといった様々な見地から更に検討を要するものと思われる。

・ナツミカン

- ・74. 5. 1 長崎市夫婦川町 産卵 (田代, 75c)
- ・74. 5. 1 " " 産卵 (田代, 75c)
- ・75. 5. 7 西山町 3卵 (江島, 78a)
- ・75. 7. 20 平戸市清水川 産卵 千北幸宏・小田あけみ・山口 (猶興館 高校生物部, 70)

・ザボン

- ・73. 5. 25 長崎市岩屋神社 10幼虫 (宇家, 78)

・ダイダイ

- ・75. 7. 20 長崎市銭座町 1卵が3卵産付 (布袋, 77c)

・ユズ

- ・76. 10. 14 長崎市上小島町 1終令 (布袋, 78)
- ・76. 10. 16 " " 3令1ex, 4令1ex (布袋, 78)

・キンカン

- ・72. 5. 26 長崎市緑町 2卵, 1初令 (布袋, 77a)

・ウンシュウミカン

- ・78. 5. 26 長崎市宮溜 11卵, 2幼虫 (宇家, 78)
- ・75. 6. 11 " 上小島町 4令2exs, (布袋, 77a)

・レモン

- ・70. 6. 22 長崎市三原町 1終令 (宇家, 78)

カラタケ [大村市] (井手など, 71a), ザボン [長崎市文教町] (布袋, 77a), ダイダイ [長崎市三原町] (宇家, 78), ユズ [長崎市三原町] (宇家, 78), ナツミカン [長崎市若竹町] (江島など, 73), [長崎市小峰町] (宇家, 78) の記録もある。

10. カラスアゲハ

対馬・奄岐・五島・平戸を含む県下各地に分布し、疎林を支えるような平地から山地まで広く見ることができが、分布の中には樹林～樹林的な環境である。他のアゲハ科のように市街地に出るようなことは少なく、生息域付近の草原、河川敷付近へ訪花・吸水のため訪れる。

平地でも個体数は少ない方ではないが、普遍的に分布しているのではなく、局地的な傾向がある。多良山系や霊仙山系など山地帯ではコクサギが主食草と考えられるが、十分調べられていない。代償食草と考えられるサンショウやキハダ、カラタケなどでは幼虫が確認されており、山地帯では食草となり得る植物が豊富で、個体数も多いことは事実である。

長崎市やその周辺、対馬などの平地海岸部ではカラスサンショウやハマセンダンから時折り幼虫が見つかるが、自生地が普遍的な前者が基本食草、後者が代償食草と考えられる。

福江市ではウンシユウミカンが、対馬萩原町ではナツミカンが報じられており、特に福江島では産卵に訪れた母蝶が多数採集でき、幼虫や卵も少なくなかった。5月中旬にはクロアゲハやモンキアゲハ、アゲハより高い種で幼虫が発見できた。カラスザンショウは福江島では多いものではないが、ナツミカンが本来の本種の食草であるかは問題があり、未調査なハマセンダンとの関係を含め検討する必要がある。

長崎市やその周辺、対馬では本種よりミヤマカラスアゲハの個体群密度が高いが、理由は明らかではなく、食草以外の要素、例えば2種の競争関係なども考慮する必要がある。

平戸では本種が圧倒的で、次種は局地的にごく少数発見されているだけである。

島嶼産の個体群のうち、五島産に次いで対馬産が最も分化度が高く、壱岐産についてもわずかな差異が認められる。五島列島産については食性の偏向の問題との関連についても検討を要しよう。

カラスザンショウ

- ・75. 5. 2 長崎市こしき岩 1♀が産卵 (田代, 76e)
- ・73. 6. 8 長崎市住吉町 1終令 (江島, 74b)
- ・78. 8. 3 下県郡美津島町久須保 1♀が2卵産付 (江島, 78g)
- ・77. 10. 2 " 萩原町豆酸 1♀が1卵産付 (江島, 78g)

ハマセンダン

- ・78. 5. 26 田代野母崎町権現山 6卵2令1ex (宇家, 78)
- ・76. 5 長崎市三原町マリア山 卵・幼虫多数 (宇家, 78)
- ・74. 8. 23 下県郡萩原町豆酸 ♀が産付 吉田喜美明・里山俊哉
高橋俊一(吉田など, 78a)

ナツミカン

- ・77. 5. 8 下県郡萩原町八幡宮境内 1♀が2卵産付 (江島, 78g)

ウンシユウミカン

- ・75. 5. 20 福江市福江空港 幼虫・卵多数 江島 [未報告]
- ・76. 5. 23 " 鬼岳 5幼虫 (後藤, 76a)
- ・76. 5. 23 " 武家屋敷 1幼虫 (後藤, 76a)

カラタチ

- ・72. 8. 5 壱仙白雲池 産卵 (布袋, 77a)

カラタチ [福江市] (田代, 75a), [壱仙白雲池] (江島など, 73), ナツミカン [福江市] (田代, 75a), サンショウ [多良岳] (江島など, 73), キハダ [多良岳] (江島など, 73) の記録もある。

ただし、カラスザンショウ [福江市久保島] (田代, 75a) は誤りと思われる。

11. ミヤマカラスアゲハ

対馬および長崎県本土の平地から山地に広く見られる。平地では前種と同数か、本種が多い場合があるが、平戸島では非常に局地的で、個体数は少ない。壱岐・五島には明らかに分布しない。

成虫は樹林や疎林内を生活の場とし、その周辺の草原、河川の近くなどへ訪花・吸水のための姿を現すことが多い。

対馬を含め、本県平地ではカラスゲンショウが基本食草であることは疑いもなく、南部海岸地帯や対馬南部ではハマセンダンが普遍的に代償食草と考へていと推定されるが、具体的データに乏しい。

キハダが山地の基本食草である可能性が高いが、この植物が自生する多良山系は問題が有りにしても、それ以外の場所ではカラスゲンショウが主食草と考へられる。対馬厳原町の記録は栽培された株から発見されたもので、自生品ではない。

・カラスゲンショウ

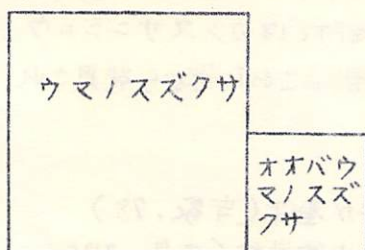
- ・73. 5. 12 長崎市三原町マリア山 子が産付(宇家, 78)
- ・77. 7. 1 下県郡厳原町久田道 子が1卵産付(江島, 78g)
- ・78. 7. 5 " 美津島町洲菜 子が2卵産付(江島, 78g)
- ・78. 7. 23 " 厳原町豆駈 子が3卵産付(江島, 78g)
- ・75. 7. 21-29 対馬 子が産卵 鶴田忠(鶴田, 75)
- ・75. 7. 30 上県郡上県町千徳嶽山 1卵 (江島, 78g)
- ・74. 8. 5 下県郡美津島町鴨居津屋 子が産卵 田代(中島など, 75)
- ・74. 8. 7 上県郡上県町御出 子が産卵 田代(中島など, 75)
- ・74. 8. 7 上県郡 " " 1卵 田代(中島など, 75)
- ・74. 5. 6 長崎市桜茶屋 1蛹[中脈上] 江島正博・山下研也
島本 勤[未報告]

カラスゲンショウ[長崎市扇町](江島など, 73), ハマセンダン[対馬南部](福田など, 72), キハダ[下県郡厳原町](浦田, 77c)の記録もある。

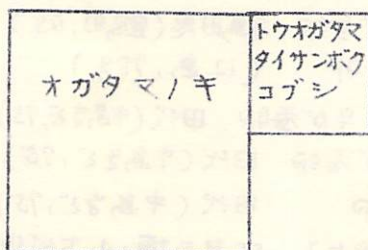
3. 食性のまとめ

以上で述べた記録をもとにした本県産アゲハチョウ科の基本食草及び代償食草相互の関係である。これによって各種は食性の広狭で次のように3型に分けることができる。

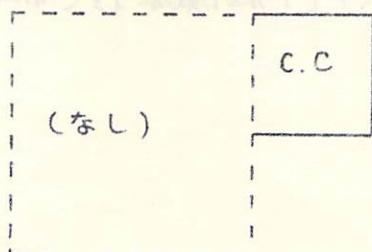
①. 食性が狭い種 (食性は基本食草が中心)



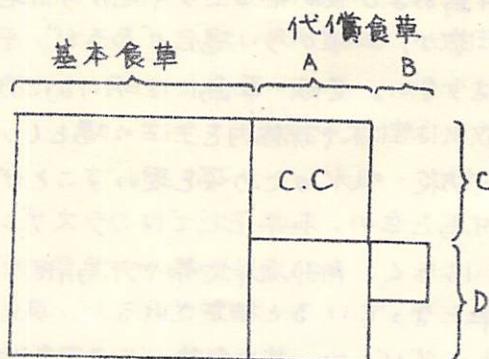
ジャコウアゲハ



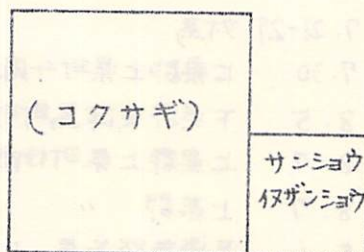
ミカドアゲハ



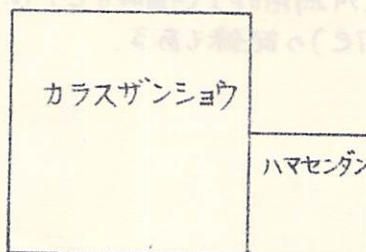
ナガサキアゲハ



- A: 普遍的な代償食草
- B: 局地的・部分的な代償食草
- C: 栽培種
- D: 野生種
- C.C.: 栽培ミカン科(一部セリ科)



オナガアゲハ



ミヤマカラスアゲハ

2年間をかえりみて

2年1組 扇 徹

生物部に入って僕がやったことは、実際の調査より部誌作りや、原簿書きなどのまとめの仕事が中心でした。

僕自身が蝶にあまり興味をもちたなかったことは事実ですが、生 部の研究は蝶とランが中心であったため活動の幅が狭かったことが挙げられると思います。今後この点を改善するとともに、やる気があるよう部員が増え加多くなると思っています。今後生物部はもっと多角的に種々な方面の活動をし、よりたこりきりものものです。

2年1組 14番 早田 謙二

「はながったなみく」という一首に尽きます。それと同時に、僕はいったいどれだけクラブに貢献できたのだろうか。どれだけ十分にやれたのだろうかという気持ちでいっぱいになります。いま考えると何も構えなかったような感じがしますが、クラブにはいって本当によかったということに自信をもっていえます。なぜなら、合宿、キャンプ、遠足などのすばらしい思い出や、クラブで味わったチームワーク、目標に向かって努力するというなどの勉強ができたからです。今後これらをすべてにおいて役立てていきたいと思えます。そして後輩に種々の活動に参入するようにまた生物部をいっしょにもっともっと発展させることを心より願望します。最後に部長としてなにもしてやれなかったことをお詫言します。

2年1組 赤間 禎二

2年間を振り返ってみると楽しかったような、そうでなかったような感じでした。

一年に入学してすぐに生物部にはいった。そのころは部員も多かったし、活動も活発であった。毎日毎日、学校のまわりやダムの方に、蝶取りに行ったり、先輩たちからいろいろな話を聞いたり、キャンプに行ったりしてそのころはとて、楽しかった。

2学期に新校舎へ移ったころから、部員も次第に少なくなりました。2年にいると先輩たちも卒業して、部がますますなくなり、部をやめてしまった。冬がすぎ春から夏がや、てくるころになるとまた部に入りたくなり、再び入れてもらった(俺ってわかままだアア)

今は、とて部員が少ないので、新入生には、ぜひ沢山入学し、今度とも、部をもちたてていてもらいたいと思っています。

今年の抱負

1年4組 国分 清

対馬には、日本ではここだけにしか見られない動植物が生息することで知られ、その中には、対馬の一部にしか見られないものもある。ぼくは、対馬のラン科植物について調べてみたいと思ひ、その一歩として、対馬に産するエビネ属4種の分布、生活環境、生態を調べ、そのことから対馬のラン科植物を調べる足がかりとしたい。

1年3組 杉原孝太郎

今年の抱負は、種類の多いアゲハの仲間それぞれの食性について調べ、その関係を明白にしたらと思う。そのためには、まず食草や幼虫について調べて山の中でも見分けられるようになりたい。どうすればなにごともはやくすむだろうと思ひ、はやくすめばそれだけ、時間的にも余裕がきき内容を充実させられるのではないかと思ふ

1年1組 歌野啓一

今年は、現二年生や卒業された先輩たちの築き上げた生物部の伝統を現一年生は三人ですが、新入生とも一致協力して高めたいと思ひます。又、これまでの先輩達が残された業績を上回るようがんばるつもりです。来年度の新入生が、生物部にたくさんはいつてくれますように。

編集後記

「Tsushima no yama」 という名称から、「対馬の自然」と替えて題目になります。内容はいかがでしたでしょうか。新しい試みとして、部員の作文等も編集してみました。何分、部員が少なくて、急に発行することになりましたので、色々未熟な面があったらと思いますが御容赦ください。今後なお一層内容を充実させ、いつまでも長く対馬の自然が発行できるようにがんばっていきたく思ひておきます。できるところでしたら、皆様方の御意見をお寄せいただければ光栄です。

来年度の生物部
のメンバー

動物と、植物と

今日も求めてさまよう!!

対馬の自然 No. 12

編集：昭和55年3月10日
発行：昭和55年3月24日
発行所：長崎県立対馬高等学校生物部

〒817 長崎県下県郡巖原町
東里120 対馬高校内